

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800240		
法人名	親愛ケアサービス 株式会社		
事業所名	すがの親愛ホーム		
所在地	千葉県市川市菅野5-2-12		
自己評価作成日	令和5年 10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和5年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは慣れ親しんだ在宅生活の延長という位置付けであることを意識して、思い出の品の持ち込みや花・絵画の設置等で家庭的な雰囲気を作っています。近年は新型コロナウイルスの影響で外部との交流が途絶えてしまいましたが、通常時は認知症カフェ(3か月に1回)や地域集会に参加しての啓蒙活動、ボランティア・職業体験受入れ等を積極的に行っています。また、【24時間体制訪問看護】【訪問リハビリ】を実施し、利用者の皆様のADL維持と安心した施設生活を提供するように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員、利用者・家族、地域、行政など関係者との風通しの良い顔の見える協力関係作りを心がけ、様々な努力を重ねている。介護人材の確保には腐心しているが、計画的な職員研修・理解度アンケートの実施、積極的なヒヤリハット活動、中堅職員によるOJT等の取り組みが見られる。入居者はお元気が多く、自立支援を基本に個別対応も行っている。ホームは明るく清潔で家族が訪問しやすい雰囲気を作り、LINEやショートメールを活用した随時の情報共有も行っている。各種の議事録や隔月発信する「すがの通信」は写真などもコンパクトに配置し、ホームでの暮らしぶり、法人やホームの理念、時々の連絡事項なども簡潔かつ分かりやすく伝えている。11月から新しい管理者が就任し意欲的に取り組んでおられ、新たな風・発展が予感させられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価 (ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営			事業所様記入		
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内掲示を行い、職員全体に浸透したと思われる。また、管理者から職員全員に対してのメッセージノートとメッセージボードを有効利用、及び、全体LINE網を整備し、より円滑に情報交換が出来るようになった。	親愛グループの理念「ひとりひとりを大切に」を介護理念、行動指針と共に分かりやすく玄関などに掲示している。毎月の「すがの通信」の冒頭には必ず親愛の理念を記載し、グループLINE等も活用し職員だけでなく家族にも積極的に発信し周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	【新型コロナ感染対策のため現在は休止中】 近隣のグループホーム、自治会(会員登録)、高齢者サポートセンターとの交流を行っている。【認知症カフェ】や中学生の職業体験の受入も再開予定。	コロナ禍に続き8月には夏風邪の発生などで自粛せざるを得ない状況が続いたが、9月以降は面会を再開し、地域のイベントへの参加、認知症カフェの開催などを予定している。コロナ禍以前は地域とは積極的な関わりを持っていたので、逐次再開の予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一般の方を対象としたイベント【認知症カフェ】を再開予定。同イベント内容として、有資格者による介護相談、入居・施設相談、また習字教室など楽しい場を提供している。また、高齢者サポートセンター主催の介護教室では、各種介護技術の指導等の講師も担当。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見については、厳粛に受け止め、代表取締役や介護現場に報告して、サービス向上に努めている。また、関連施設の曾谷の同会議にも参加し、あらゆる視点で対応している。先日は、運営推進会議時に、施設内見学を取り入れた。	年6回、年度初めに開催日を決めて計画的に開催している。書面開催の時も事前に「意見回答書」を送付し、結果は詳細な議事録に回答書を添付して報告するなど丁寧な対応である。8月の第2回運営推進会議以降は地域包括職員、民生委員の参加を得て対面での開催を再開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは書類提出時の交流以外にも、介護記録の変更や新型コロナに関するシフト調整等、軽微なことについても積極的に相談するようにしている。	市川市介護保険課を毎月訪問し、顔の見える関係を作っている。最近では地域包括主催の一般の方を対象とした介護技術教室の講師の要請を受け担当するなど、行政や関係機関の信頼が厚い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針を作成し、職員全体で共有している。同時に高齢者虐待・身体拘束委員会を設置、外部研修にも職員及び管理者が参加して正しい知識を得た上で、年に4回の法定研修(施設内勉強会)を行っている。	毎月の定例会議時に年4回高齢者虐待・身体拘束委員会を開催し、職員研修を実施し、理解度を図るアンケートを取るなどして、無意識にも身体拘束に繋がらないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	上記同様、高齢者虐待・身体拘束廃止委員会の下、正しい知識を職員全体が共有できるようにしている。(虐待アンケート実施) 時折、管理者が夜間帯ケアのラウンドを行い、虐待の実情がないかも確認している。特に【無意識の中の虐待】という点については意識している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は要望に応じて利用している。この項目に対する全体研修は行っていないものの、ケアマネジャーやリーダーとは個々に相談し相互理解を深めている。今後も同様の要望がある場合には円滑に進められる準備をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者とケアマネジャー、必要であれば曾谷の管理者や施設看護師が立ち合いの下複数で行い、あらゆる視点からの不安・疑問点に答えられるようにしている。契約時は利用者のご家族様の考えも考慮し、近年はLINE等を使用した気軽に相談できる環境も整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に、意見・要望がある場合は、管理者やケアマネジャーが積極的に面会時やLINEでの情報収集を行っている。また、外部のアンケート内容については玄関に閲覧用として掲示したり、職員全体LINEでの情報共有をしている。	家族アンケートでは毎週、月1回以上と訪問が多く、訪ねやすいホームとの回答が多い。家族とはLINEやショートメールなども活用し随時連絡を取り合っている。書面運営推進会議時には事前に「意見回答書」を送付し要望を引き出し、回答している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に職員面談や本社人事部との面談も実施し、個別に、意見を聞く機会も設けている。昨年から会議を細分化し、グループホーム会議、グループホームリーダー会議、と規模会議を分割として、利用者の情報共有だけでなく、様々な意見交換の場としている。	職員とは日常の支援を通じてメッセージノートやボードなども活用して気づきを共有し、毎月のグループホーム会議、リーダー会議などで話し合っている。ヒヤリハットなども沢山出し合って改善や事故防止に繋がっている。年2回の個別面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	近年はLINEを通じて、職員の心の声を聞くことができるようになってきている。勤務状況は完璧に把握し、シフト作成についても細部まで検討している。ただし、当施設に本社機能はないため、代表者まで意見がいくことは少ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅社員を中心に外部研修に参加させ、新入職員については、入念な入社オリエンテーションを行い、その後、現場で指導職員を決め、管理者自身がOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム及び高齢者サポートセンターのイベントに積極的に参加している。また、本社幹部職員も積極的に市川市の施設訪問を行っている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の段階で管理者・ケアマネジャーだけではなく、必要とあらば介護職員・看護職員も同席している。また、実地調査(自宅訪問)は必ず行い、日頃の生活の環境を調査し、様々な不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。大半の利用者とはLINEまたはメールにて、契約前から情報交換と要望聴取は出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム職員は、利用者の生活スタイルを把握して、散歩・趣味等の今までの生活リズムを継続するように努力している。また、入念にミーティングを繰り返したのち、利用者の嗜好・性格に合わせて居室移動も試みている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	接遇を含めて、家族との交流も行い、家族の考えも含めた、より深い介護が出来るように努めている。新型コロナ禍も制限を設けながらも、可能な限り家族面会を継続してきた。さらに管理者やケアマネジャーも少し立ち会い、大半の家族とメールやLINEで情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人等の面会も、積極的に受け入れている。	馴染みのスーパーへの買い物に職員が同行する等、本人の希望に沿った支援を心がけている。友人等の面会も再開し、家族の了解の下に実施している。また友人への手紙や電話で話したい方には支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を深く理解し、生活共同室での席の並び方も考慮している。また、ミーティングを繰り返したのち、利用者のADLや嗜好・性格に合わせて居室・座席移動も試みている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価(ACOB A記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の他施設への案内・紹介は管理者・ケアマネジャーが多岐に渡り積極的に行っている。また、逝去についても、その後の案内・関係業者紹介等も行っている。ご家族の了承が出れば、転居先にも面会に出かけることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活経過や思い出、関心事に興味を持ち、職員回覧として情報共有を行っている。また、カンファレンスも随時実施し、現在は休止しているものの、市役所介護相談員派遣を受け入れ、利用者のより正直な本音を聞くことになっている。	同じ目線で会話をすることを心掛け、会話や表情から思いや意向の把握に努めている。また、本人の生活歴を把握し、職員間で共有しており、家族の評価も高い。市の介護相談員の派遣再開も申し入れ中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約・入居時に利用者だけではなく、家族からも情報収集している。積極的に実地調査(ご自宅訪問)も行い、利用者の歴史を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状態、嗜好を把握・職員間共有し、記録として残している。カナミック(介護記録タブレット)を使用し、より把握しやすくなった。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望に添うように、職員間でカンファレンスを行い、ケアプランとしている。	利用者・家族の希望に沿って介護支援ソフトを活用しての日々の記録を共有し、カンファレンスを行い各職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者・家族アンケートでもほとんどの方が「説明を受け話し合っている」と回答している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カナミック方式にして、以前の手書き式介護記録よりも容易に情報を引き出すことができるようになった。結果的に、より、綿密な介護計画を作成できるようになった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者嗜好に合わせて、散歩及び買い物同行を行っている。また、管理者・ケアマネジャー等職種にとらわれない同行を実施している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【新型コロナ感染対策のため現在は休止中】以前は、ボランティア来所を積極的に実施、子供110番も行っており、地域協力を行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院には、管理者・ケアマネジャーが送迎・付き添いを可能な限り行い、往診診療及び往診歯科診療も行っている。	入居に際し、かかりつけ医をホームの契約訪問医に切り替えて頂く様にお願いしている。訪問医は月2回来診と緊急往診、24H 対応訪問看護師、訪問歯科医、薬局の来訪等がある。他科への通院は都度職員が同行する等、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	【24時間体制訪問看護】と契約し、よりの確な指示が受けられるようになった。また、別階の小規模多機能型施設の非常勤職員として看護師1名を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネジャーが中心となり、病院等との連携・情報交換を行っている。また、管理者は病院関係の集会等にも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、家族との間で、早い段階から行っている。【看取り加算】を算定しており、充実したチーム支援の提供を行っている。	契約時に重度化した場合の事業所方針を説明の上、同意を取るようになっている。重度化傾向が見られた時には早い段階に再確認して、対応している。看取りについては医師の指示の下に家族の協力を得て、チームケアで支援に取り組んでいる。今年は一人の方の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に急変対応等の研修には参加しているものの、職歴の浅い職員には浸透しておらず、小規模配属看護師を中心とした施設内個別研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前の台風被害を教訓にして災害発生時に役割分担は行っているものの、地域との協力体制は今後の課題。また、派遣職員等への緊急時対応指示は今後、徹底していく。	3年前の台風時の水害を教訓に、近くの川の増水時を想定し、避難訓練を行っている。3階建ての堅固なビルであり、垂直非難を基本としている。備蓄は通常食である冷凍食品を複数の冷凍庫に多めに保管している。BCPIは本部で作成している。	火災時の避難訓練についても検討いただきたい。

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への話し方、態度については、尊厳を守る観点から、入社時オリエンテーション時から指導している。また、個別面談は随時実施している。	ホームの理念[ひとりひとりを大切に]を基本姿勢として、職員研修等で理解を深めている。個々の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない節度ある言葉遣いや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ目線からの声掛け・傾聴により、利用者の気持ちを理解する努力をしている。管理者は【共感】が最重要と考えているので、その考えを浸透させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活のリズムを把握し、個々の希望を可能な限り優先させている。現在は休止しているものの、介護相談員からも利用者の希望を聞き取るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・整容は安全を考えて共に実施。整容は外部業者を施設に呼び、気軽にお願ひできる環境を整えている。整容内容については、ご家族様からの意見を参考にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクリエーションは各利用者の誕生日やイベントに特別食を用意し、以前よりも増加。食事準備、後片付け及び食器洗浄については、利用者の安全の範囲で、ほぼ毎日、手伝ってもらう。	比較のお元気な方も多く、できる方は準備や片付け等行っている。誕生日や行事の時には豚汁を作ったり、スイートポテト等のおやつ作り等を通して、食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、カナミック入力のため把握しやすく、専用の用紙も使い、より理解しやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当然ながら、口腔ケアについては実施している。義歯を装着している際の、注意も十分に情報共有している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、自立排泄を心掛け支援している。【訪問リハビリ】で生活環境の中での生活リハビリを職員も一丸となって実践している。ミーティングでも排泄の自立を促すように努力している。	ほとんどのの方がトイレでの排泄が可能であり、日中は、声掛け等により自立を促して、QOLの維持・向上に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の健康記録を確認し、薬剤に頼らない便秘予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員の関係で、利用者の希望に完全に沿うことはできないものの、湯ぶねに浸かる時間等は、健康を考えた上で、利用者の希望に応じるようにしている。可能な限り、落ち着いた入浴を行う為、1日の入浴人数を1ユニット当たり2～3名に少なくしている。	1日の入浴人数を1ユニット当たり2～3名として、週2回の入浴を基本としている。2階には機械浴の設備がある、3階の浴室は広めの個浴であるが、身体状態により2階の機械浴を利用している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体を動かすレクリエーション等を行い、昼夜逆転しないように努める。ただし、利用者の入居前のリズムだけは崩さないように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分の意思で内服できるように、丁寧な声掛けを実施。薬剤の効能は、以前、精神科医師を招き薬剤の効用と副作用の勉強会を開催したり、看護師が薬剤情報を共有することにより、職員全体の知識を高め、その後のカンファレンスで、誤薬のないように声出し複数確認作業を徹底している。しかしながら、誤薬事故は時折あるために、注意喚起が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々で得意なことを把握して、将棋、習字、編み物等のレクリエーションを実施。食器洗い等お手伝いもお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出支援を行っている。嗜好品の購入時も可能な限り利用者と一緒に行っている。車輛を使う場合は、介護職員だけではなく、送迎要員、管理者、ケアマネジャーも積極的に協力している。	ホーム周りの散歩を日課として外気浴と気分転換に繋げている。また嗜好品や衣料品等の買い物希望には、職員間で協力し、個別対応で支援しているが、家族アンケートでは外出支援については「分からない」の回答が多い。	

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価(ACOA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	上記同様、日常的に外出支援を行い、利用者持参金を厳密に管理し、家族同意のもと、嗜好品及び消耗品の買い物も同行で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者希望があれば、本人の携帯電話や施設電話使用を認めている。手紙についても同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りについては、常に明るく、絵画を掲示、明るい雰囲気を作っている。また、建物内も、利用者作成の掲示物及び絵画、ベランダにも多数の生花を設置し、癒しの空間を提供するようにしている。	玄関前には季節の花のハンギングを飾り、施設内は季節に合わせた飾りや利用者の作品が飾られており、清潔感がある。採光の良いリビングでは利用者が和やかにくつろいでおり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者に応じて机の位置を変えている。性格、テレビ等の嗜好、及び介護の能率も考慮している。また、必要の際は利用者の嗜好・性格に合わせて居室移動も試みている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の慣れ親しんだ空間を、可能な限り再現するために、品物や写真等、記念の品々を持ち込めるようにしている。	入居前から使い慣れた家具等を持ち込み、品物や写真等、記念の品々配置して自宅での生活の雰囲気を継続するようにしている。自ら清掃活動を行う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの大きさ、ベランダ設置、エレベーター・階段の自動ロック等安全面を考えた設計となっている。		